

日本分類学会連合ニュースレター
*News Letter published by the Union of
 Japanese Societies for Systematic Biology*
 No. 32 [2018年 11月 25日]

日本分類学会連合のトピックス

第 18 回日本分類学会連合公開シンポジウム

日本分類学会連合第 18 回公開シンポジウム「最近話題となった日本からの新種、珍種、新発見」が以下の要領で開催されます。

日時 2019年1月12日(土) 13:30~17:05

会場 国立科学博物館(上野本館)2階講堂

主催 日本分類学会連合

共催 国立科学博物館

開催趣旨

日本分類学会連合は、全生物を対象にした生物多様性の研究および教育を強力に推進し、ひいては社会の要請に応えるよう活動を行なうことを目的として設立され、その一環として毎年公開シンポジウムを開催しています。今回のシンポジウムは、一般の方、特にこれから研究者を目指す大学生や高校生にも生物多様性の研究をより身近に感じてもらうことを念頭に企画されました。生物多様性研究を一口で言い表すことは難しいものですが、「新種の発見」などのトピック的な話題が一般の方にとって入りやすい入口ではないかと考えられます。新種の発見などは生物多様性研究の一つの成果であり毎年数多くなされているものです。そこで、今回は、科学情報誌やマスコミなどを通して報道された新種や珍種について実際の研究者から話を聴く機会としました。このシンポジウムによって一般の方が生物多様性研究の面白さに興味をもつきっかけとなり、さらに、学生諸氏が生物多様性研究を目指す一つの指針になればと思います。

細矢 剛 (国立科学博物館)

プログラム

- 13:30~13:40 開会あいさつ・趣旨説明
細矢剛：国立科学博物館
- 13:40~14:10 日本からの珍渦虫の発見
中野裕昭：筑波大学
- 14:10~14:40 カイメンの衣を纏う！新属新種
“テンプライソギンチャク”
泉 貴人：東京大学大学院
- 15:40~15:10 キノコを食べる植物「菌従属栄養植物」
の新種発見，分類学的整理と生態解明
末次健司：神戸大学
- 15:10~15:40 休憩
- 15:40~16:10 珍奇な菌の魅力を発信する
—日本珍菌賞—
白水貴：三重大学大学院生物資源学
研究科

- 16:10~16:40 世界最小の多細胞生物
“しあわせ藻”
野崎久義：東京大学
- 16:40~17:00 総合討論
- 17:00~17:05 終了挨拶
塚越哲：静岡大学

会場へのアクセス

国立科学博物館のホームページをご覧ください。
<http://www.kahaku.go.jp/userguide/access/index.html>

特別寄稿

**125万点の植物標本を収蔵できる
牧野標本館・別館の完成**

村上哲明
首都大学東京・牧野標本館

今年(2018年)の3月に、増築中だった牧野標本館の別館が完成し、これまでの建物(牧野標本館・本館)にある植物標本庫と合わせて175万点の押し葉標本を収蔵できるようになりました(写真1)。また、牧野標本館が所蔵する被子植物と裸子植物の標本については別館の新しい標本庫に移し、さらに標本の配列の仕方も、分子系統解析の結果に基づくAPG IIIの分類体系に準拠したものに変更しました。別館には展示会用のギャラリー(TMUギャラリー)も設けられています(写真2)。そして、来年(2019年)の3月6日(水)~9日(土)には、日本植物分類学会の第18回大会を首都大学東京・南大沢キャンパスで開催し、新しい標本庫を植物分類学分野の研究者の皆さま、植物に関心のある一般の方々にお披露目をする予定です。

牧野標本館は、日本の植物学の父と呼ばれる故牧野富太郎博士が自宅で所蔵していた押し葉標本(牧野標本)を保管するために、1958年に設立されました。現在、重複標本を除いた16万点の牧野標本が整理され、牧野標本館の植物標本庫に収蔵されています。牧野博士がこれらの植物標本を採集したのは、今から百年以上も前の明治時代でした。この間、例えば東京都心部の環境は大きく変化し、大半の野生植物種は見られなくなってしまいましたが、これらの場所に生えていた植物が標本となって牧野標本館には残っております。地球上から完全に絶滅してしまった野生植物種の標本さえも複数あります。牧野標本は、かつての東京、そして日本の自然環境を科学的に知るための貴重な資料

でもあります。

牧野標本館には牧野標本に加えて、牧野博士の重複標本を外国などの植物標本庫と交換して得た外国産の植物標本、あるいは本学の教員や学生が国内外で採集した標本なども保管されています。これらの標本が毎年1~2万点ずつ蓄積していった結果、50万点の標本を収蔵できる牧野標本館・本館の標本庫は満杯となり、段ボール箱に入れられた未整理の標本が通路にまで溢れておりました。今回、本館の2.5倍(125万点)の標本収容量を誇る新しい標本庫を有する牧野標本館・別館が完成したことにより、余裕をもって標本を保管できるようになりました。今後、採集されて牧野標本館に新たに収蔵されていく標本も、東京、日本、そして世界の環境変化を知るための貴重な標本となるはずで

す。実は東京都は、熱帯・暖温帯域の小笠原・伊豆諸島から、冷温帯・亜寒帯域を含む奥多摩まで、最も多様な環境をもつ自治体なのです。その一方で、都内にどのような野生植物が生育しているかさえもきちんと整理されていません。これらの情報は、東京都の野生植物を適切に保全するためには不可欠です。牧野標本館は、大きくなった標本庫を最大限に生かして、これらの研究、そして東京都植物誌の編纂を推進していきたいと考えております。今後も、ご支援を賜れば幸いです。



写真1: 牧野標本館・別館の植物標本庫棟(薄ピンク色の建物)



写真2: 牧野標本館・別館に附属する首都大ギャラリー(展示用スペース)の出入り口

**日本分類学会連合加盟学会の
大会・シンポジウム情報**

種生物学学会

2018年第50回種生物学シンポジウム
会期: 2018年12月7日(金)~9日(日)
会場: 八王子大学セミナーハウス(八王子市)

日本菌学会

日本菌学会第63回大会
会期: 2019年5月24日(金)~26日(日)
会場: 秋田県立大学生物資源科学部(秋田市)

日本甲虫学会

日本甲虫学会第9回大会
会期: 2018年12月1日(土)~2日(日)
会場: 栃木県立博物館(宇都宮市)

日本古生物学学会

第168回例会
会期: 2019年1月25日(金)~27日(日)
会場: 神奈川県立生命の星・地球博物館
(小田原市)

日本植物分類学会

2018年度日本植物分類学会講演会
会期: 2018年12月15日(土)
会場: 大阪学院大学(吹田市)

2018年度日本植物分類学会第18回大会
会期: 2019年3月6日(水)~9日(土)
会場: 首都大学東京 南大沢キャンパス(八王子市)

日本生物地理学会

日本生物地理学会第74回年次大会
会期: 2019年4月13日(土)~14日(日)
会場: 東京大学フードサイエンス棟(文京区)

日本藻類学会

日本藻類学会第43回大会
会期: 2019年3月15日(金)~17日(日)
会場: 京都大学吉田南キャンパス(京都市)

日本動物分類学会

日本動物分類学会第55回大会
会期: 2019年6月8日(土)~9日(日)
会場: 神奈川県立生命の星・地球博物館
(小田原市)

日本哺乳類学会

日本哺乳類学会2019年度大会
会期: 2019年9月15日(日)~18日(水)
会場: 中央大学後楽園キャンパス(文京区)

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト〈TAXA〉は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。〈TAXA〉メーリングリストは下記の趣旨により開設されました。

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト〈TAXA〉」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほかに、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

2003年12月21日
日本分類学会連合
代表:加藤雅啓

〈TAXA〉は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼働開始しました。2018年4月27日の時点で1100名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、〈TAXA〉運営担当の三中信宏(taxa-admin@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

【編集後記】

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は江口宛(antist@tmu.ac.jp)に電子メールでお送りください。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。(ニュースレター編集担当:江口克之)

日本分類学会連合ニュースレター 第32号

2018年11月25日発行

発行者 日本分類学会連合

事務局 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館・筑波研究施設内

編集者 江口克之(首都大学東京大学院理工学研究科)
